

# 久留米大学バイオ統計センター公開セミナー

以下の要領にて、公開セミナーを行います。奮ってご参加ください。

日時：2019年7月4日木曜日, 15:00-17:00

場所：久留米大学バイオ統計センター(医学部B棟7階) 講義室

<http://www.biostat-kurume-u.jp>

**樋口恭子** (久留米大学 バイオ統計センター・博士課程)

## 「腎障害を発症するシスプラチン量の評価

-Evaluating dose of cisplatin responsible for causing nephrotoxicity-

シスプラチンは多様な癌種の患者に投与される抗悪性腫瘍剤であり、その治療法は癌のタイプや重症度において複雑化している。シスプラチンの重大な副作用には腎障害があり、投与量依存性で治療を受けた患者の20~30%に発症することが報告されている。しかし、どのような患者にどのくらいの投与量で腎障害を起こすのかは明確ではなく、患者背景を考慮した投与量の検討は十分ではない。我々は、ドセタキセル、シスプラチン、5-フルオロウラシル（以下、TPF）療法に焦点をあて、実際に投与された患者背景因子と腎障害を引き起こすシスプラチン量との関連性を調査した。その結果、患者背景因子によっては、TPF療法の標準量よりも少ない量で腎障害を起こすことが明らかになった。特に、筋肉量が少なく、マグネシウムの投与がなく、SAIDsを服用している患者においては、標準量の1/3量で腎障害を発症する結果となった。この結果は、患者特性や併用薬を考慮し、シスプラチン量を調整することが重要であることを示唆する。